

特集

成人の自閉スペクトラム症とライフステージの課題

特集にあたって

広沢正孝*

成人の自閉スペクトラム症(以下, ASD)が, 本邦における(成人の)精神医学領域で注目され始めてから, すでに20年以上が経過した。近年では, 成人のASDをめぐる幾多の企画が, 医学関連雑誌などで生まれ, さまざまな臨床知見が集積されてきた。もはや成人のASDは, 精神医学における「新たなトピックス」とまでは言い切れなくなっているのではなかろうか。

しかし残念なことに, 成人のASDをめぐる知見は, いまだ個々の実践経験やケースの域を出ず, これらを体系化できるような臨床実践理論(精神医学的問題, 社会生活上の課題, 治療や支援の具体策)の構築までには至っていない。その要因として, 彼らの個性差(性差, 年齢差)に加え, 生育史の多様性, 彼らの(成人としての)生活環境の幅広さを挙げることができよう。多様性や幅広さの面では, 定型発達者にも匹敵するほどである。

成人のASD者の臨床経験や臨床知見が集積されてきた今日, そろそろ実践治療(実践対応)体系が欲しいところである。そこで今回注目したのが, ASD者のライフステージである。つまりいかなるASD者においても, 年齢を重ね, 社会の中で各年齢の課題(発達課題)に直面していく。彼

らには, その都度ASD者ならではの適応の問題が顕れ, それが独特な言動, 精神症状に結実していくと思われるからである。したがって我々は, 一人のASD者に接する際, 彼らが将来歩んでいくライフステージの課題をも考慮に入れた対応を行わなければならない。そのためにも, 各年代のASD者をめぐる臨床知見を明らかにし, それを体系的にまとめる試みが必要と言えよう。

そこで今回は, 各ライフステージで生起する, ASD者ならではの課題を, 各専門家に綴っていただく機会を設けた。つまり現代文化の中で, 各年代の彼らが, 成人の男性や女性として周囲からいかなる期待や要請を受け, どのような適応上の問題や精神症状(や身体症状)が露呈し, 生活上の困難に遭遇しやすいか, 彼らが生きにくい現代社会とはいかなる特徴を持っているのか, そしてそれに対してどのような支援方法が考えられるかといった知見を, 臨床家としての豊富な経験や文献をもとに論じていただくことにした。

今回の企画が, ASD者の生涯を見据えた, より実践的な臨床体系の構築の礎となることを期待する。

* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科(☎ 270-1695 千葉県印西市平賀学園台1-1), HIROSAWA Masataka: Graduate School of Sports and Health Science, Juntendo University, Chiba, Japan